



合志の旋風^{かぜ} ～自律貢献～

令和7年10月17日（金）No 23 発行
文責：松本 卓也

「一つ一つ」「幸運は準備された心に宿る」 ～2025ノーベル賞～

2025年のノーベル生理学・医学賞を坂口志文氏（大阪大学特任教授）、ノーベル化学賞を北川進氏（京都大学理事）が受賞されることが発表されました。坂口特任教授は過剰な免疫反応を抑える「制御性 T 細胞」の発見、北川特任教授は極小の穴が無数に開いた「金属有機構造体（MOF）」を開発した功績が認められたものです。受賞から一夜明けた会見で、①座右の銘と、②次世代へのメッセージを聞かれた際、お二人は次のように答えています。

【生理学・医学賞：坂口氏】



- ① いやあ、中々そんな四字熟語のような信念がなくて、今、自分に言い聞かせるとするのなら、本当に「一つ一つ」ということになります。※後日、飾らない率直な心を持ち研究を続けたという意味で「素心」の言葉を挙げられました。
- ② お稽古事でもいいですし、スポーツでも、また我々がやっておりますようなサイエンスでもいいと思うんですけども、自分で興味のあることを大切にする、またそれをずっと続けることによって、また新しいものが見えてくる。気がついたら非常に面白い境地に達していると……。そういうことが起こればサイエンスに限らずどんな分野でも面白いかなと思います。



【化学賞：北川氏】



- ① 「勁草（けいそう）の心」と「無用の用」です。「無用の用」とは、役に立つものはみんな役に立つと知っているが、役に立たないものも役に立つ、そういう科学もあるということです。
- ② 細菌学者の父であるルイ・パスツールが『幸運は準備された心に宿る』という名言を残しています。私の流れを見たときに、いい先生に恵まれて、そしていい友だちに、そして学会でもいろんな付き合い、それが実は準備されたことになる。ある日突然、宝くじを引いたから当たるもんじゃない。だから、皆さん方、自分の育っていく過程でいろんな経験をするんですけども、それをより大切にして将来、花開く可能性があるということをお願いしています。

成果を発表した当初は、「免疫反応を抑える免疫細胞は存在しない」「気体が入るとは信じられない」等、他の研究者からは冷ややかな目で見られたり、批判されたりしたそうです。しかし、実験の結果を信じて信念を曲げず、世界に認めてもらえるようあきらめずに研究を続けて、今回の受賞につながりました。

最近、日本の子どもたちの「理科離れ」が問題視されていますが、今年の郡市科学展・発明工夫展に本校から12作品を出品し、発明工夫展の部で3年生Oさんの作品「自転車スマホ充電 Part2」が県優賞（県出品）を受賞しました。合志中の子どもたちには、学生時代に単に知識を学ぶだけではなく、色々なことに好奇心を持ち、それを突き詰めていく経験をたくさんしてほしいと願います。学校でも、子どもたちの背中を押す取り組みを続けていきたいと考えています。



後期の目標 ～後期始業式～

昨日より後期がスタートしました。始業式では、2名の生徒が「文武両道をモットーに頑張りたい」「責任と挑戦を大切にしたい」と目標や抱負について発表してくれました。「自律」し「貢献」する生徒の育成に向け、自発的・自治的な集団をつくる力を育ててまいります。保護者の皆さまには、本校教育への引き続きのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



郡市中体連駅伝大会推戴式

後期始業式に引き続き、選手推戴式を行いました。選手紹介の後、駅伝メンバーを代表して陸上部のNさんから「最後まで全力で頑張ります」との決意表明が、生徒代表激励の言葉では、執行部のMさんから「応援には行けませんが、学校で精一杯応援します」と、なかまを支え励ます言葉がありました。自分の限界に挑む走りを期待します。“起こせ！合志の旋風！！”



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）